

2024年6月17日
株式会社レアジョブ

66万人(*1)のデータから日本人の英語スピーキング力の実態を調査 グローバルビジネスで通用するレベルの英語力を持つ人材は7% 役員と学生の方が、現場で実務を担う社員よりスピーキング力が高い

EdTechカンパニーの株式会社レアジョブ（以下、レアジョブ）法人向け事業子会社、株式会社プロゴス（以下、プロゴス社）は、2020年6月の提供開始から4周年を迎えたAIビジネス英語スピーキングテスト「PROGOS®」の受験データを活用し、日本人の英語スピーキング力に関する調査結果を発表いたします。

日本人の英語スピーキング力に関する実態調査2024

グローバルビジネスで通用する 英語力を持つ日本人は7%

役員と学生の方が、現場で実務を担う社員よりスピーキング力が高い

PROGOS
for English Speaking

■調査背景

レアジョブグループでは、2020年6月よりAIビジネス英語スピーキングテスト「PROGOS®」を提供しており、今年で4年を迎えます。AIの自動採点により国内外の企業・大学で広く活用されており、現在のべ受験者数は66万人に上り、77の国と地域で受験されています（2024年5月末時点）。

“日本で最も年間受験者数が多い英語スピーキングテスト(*2)”として認知も高まっている中、4年間で蓄積した大規模受験データを調査・分析し、日本人の英語スピーキング力の実態と課題を明らかにいたしました。

*1 2020年6月以降の「PROGOS®」のべ受験者数

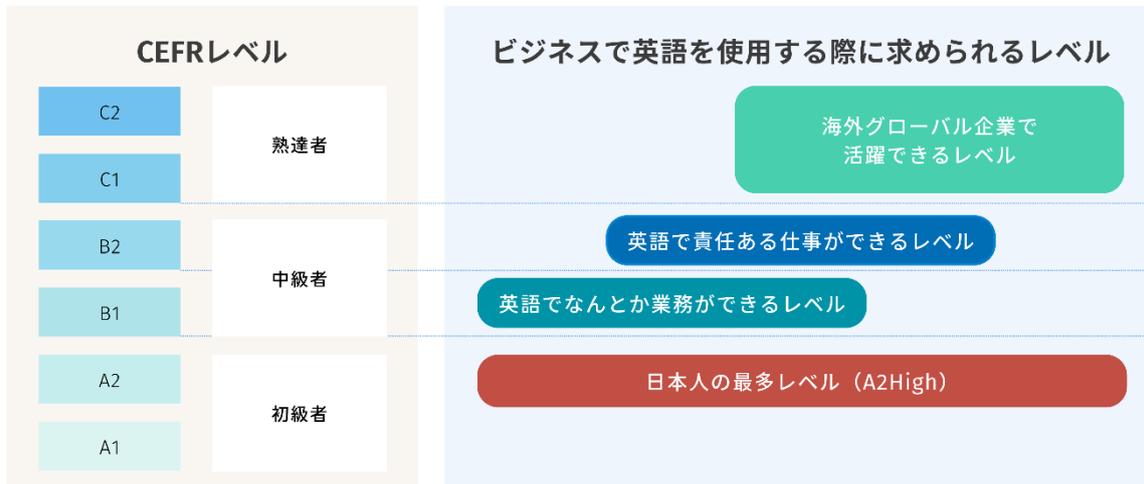
*2 自社調べ、「スピーキング力」の技能のみを測定するテストが対象

■調査総括、主な TOPICS

今回の結果から、日本企業のグローバル展開への動きが活発になっているにもかかわらず、それを担うべき人材の英語力、特にスピーキング力が追いついていないことが明らかになりました。また、学生・役員と比較すると、実務を担う一般社員・管理職のスピーキング力は低く、語学力の面でもグローバル戦略の実効性を裏付ける人材の育成・確保の必要性が浮き彫りになりました。

<国際指標「CEFR」におけるビジネスで英語を使用する際に求められるレベル>

「PROGOS®」は、国際的な言語力指標である「CEFR（セファール）*3」に準拠しています。本調査では、以下レベルに基づき、結果を解説いたします。



*3 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages/ヨーロッパ言語共通参照枠)の略。言語運用能力別のレベルを示す。

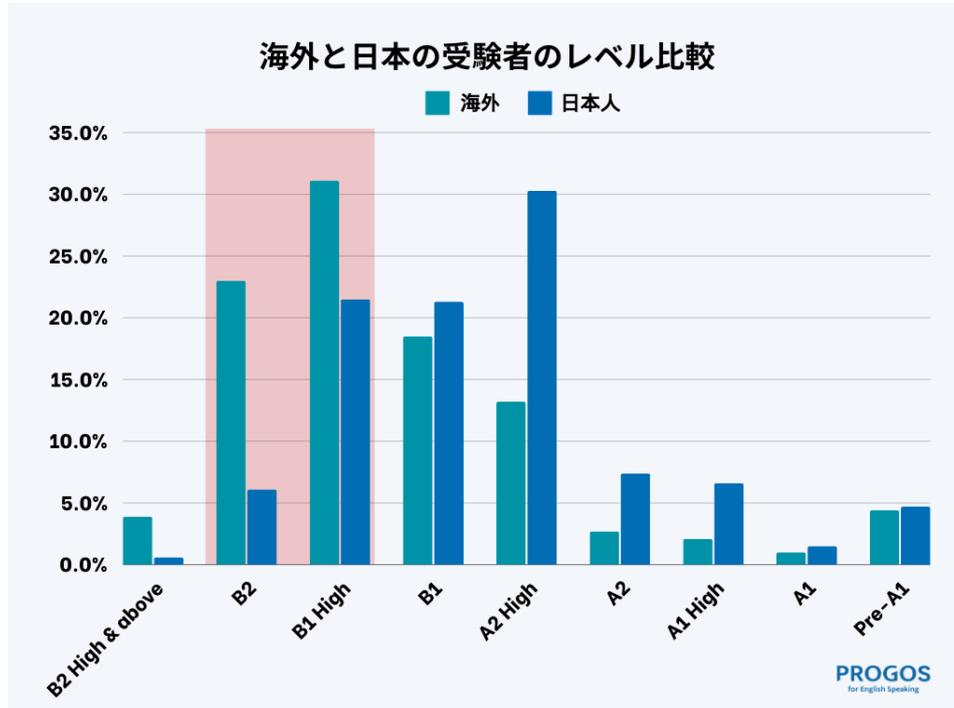
<主な TOPICS>

- ・日本人の最多は初級段階の「A2High」で、英語で業務ができる以前のレベルであり、「B2」「B1High」が多い海外受験者と比較するとその差は顕著である
- ・役員と学生の方が、現場で実務を担う社員より「スピーキング力」が高い
- ・グローバル関連の業務を行う部署でも、英語で責任ある業務を行える「B2」以上は1割程度にとどまる
- ・日本人の「リスニング・リーディング力」と「スピーキング力」の間には依然として大きなギャップがある

■結果① 日本人の最多は初級段階の「A2High」で、英語で業務ができる前段階のレベル

2020年6月の提供開始より4年を経たのべ受験者数は66万人、そのうち日本人のビジネスパーソン（一部、大学生を含む）は42万人が受験しており、スピーキング力はCEFRレベルで以下の分布となることが判明しました。また、「PROGOS®」は現在77の国と地域で利用されており、海外の受験者と日本人の受験者の比較も行いました。

- ・日本人の最多レベルは「A2High」であり、英語で何らかの業務ができるレベルには達していない
- ・グローバルビジネスで通用するレベルである「B2」以上は7%にすぎなかった
- ・また、これに対し、海外受験者の最多レベルは「B1High」であり、「B2」以上が4分の1を超えていた

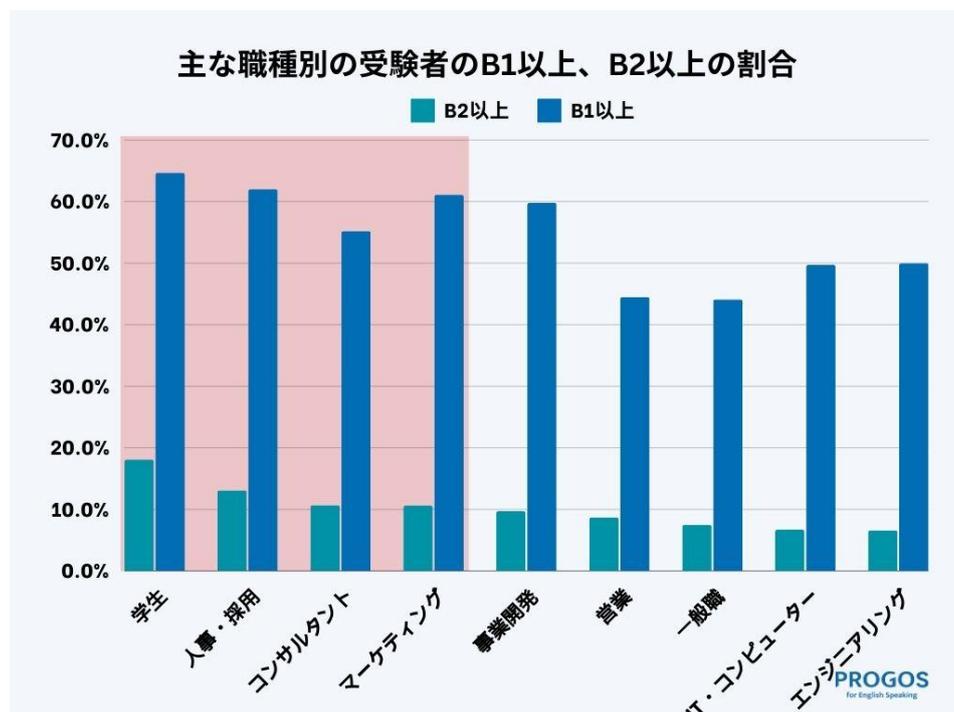


■結果② 役員と学生の方が、現場で実務を担う社員よりスピーキング力が高い

受験者の業種・職種・役職別に、業務で英語を使うのに最低限必要なレベルである「B1」、英語で責任ある仕事ができるレベル「B2」、それぞれのレベルにどれくらい的人数がいるのか、分析を行いました。なお、業種と職種については特に受験者が多かった業種・職種を抽出して分析をしています。

・主な職種別：ビジネスパーソンの中の職種よりも、学生のレベルが最も高い

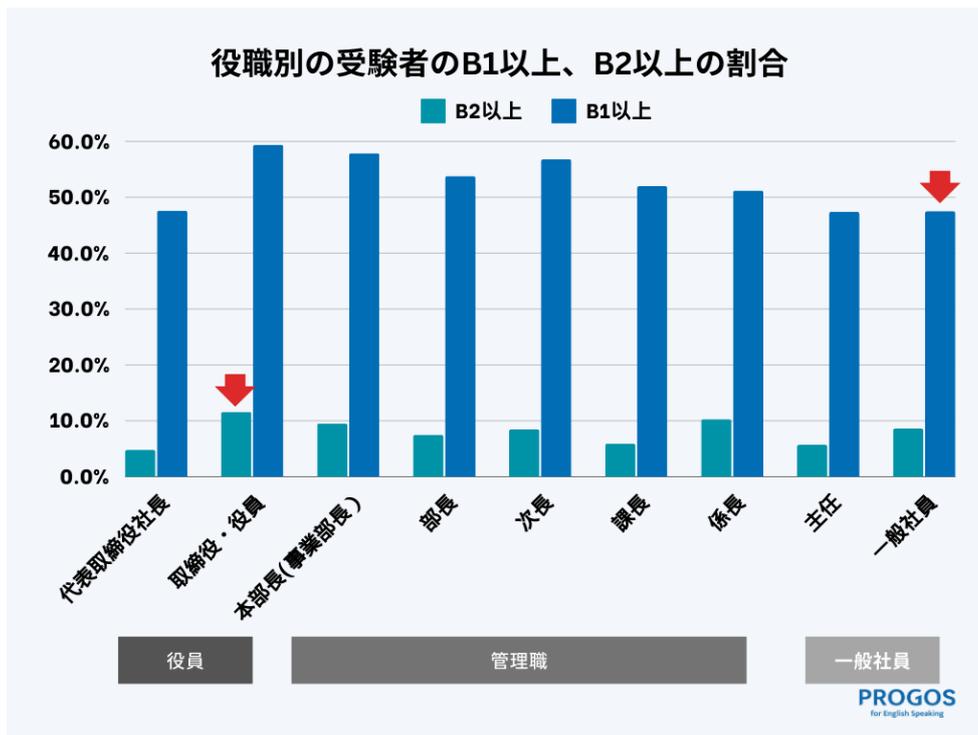
営業、一般職、事業開発、エンジニアリング、IT・コンピューター、人事・採用、マーケティングの職種に加え、学生を対象に分析を行いました。その結果、「B2」以上のレベルの割合が多い職種は、人事・採用、コンサルタント、マーケティングでした。さらに、学生の受験者はほか職種と比較しても「B1」以上「B2」以上共に最もスピーキング力が高いという結果となりました。



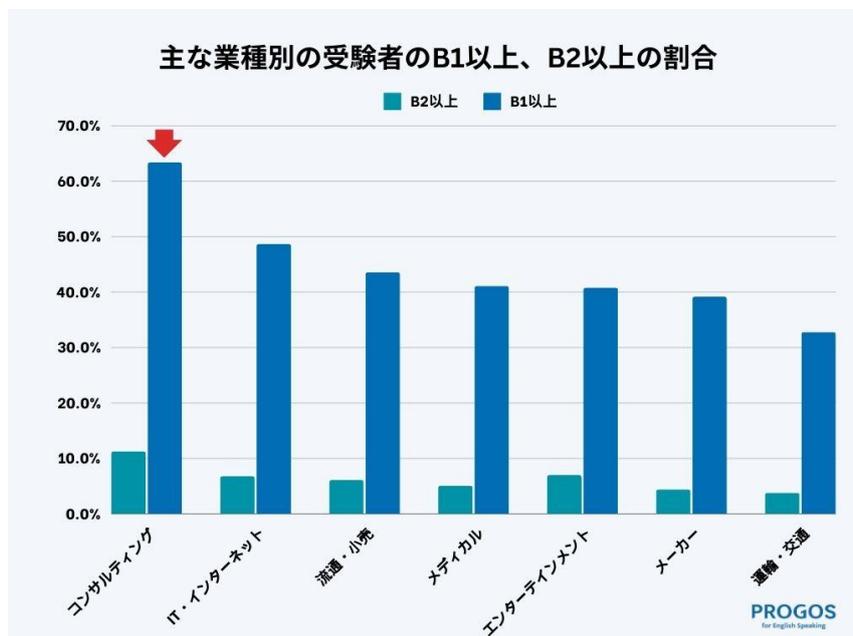
・役職別：現場で実務を担う社員よりも、取締役が最もスピーキング力が高い

一般社員から代表取締役までの役職別の比較を行いました。すると、取締役が最も「B2」以上のレベルが多いことが分かりました。また、「B1」以上の割合が一般社員が 47.9%と最も少なかったのに対し、管理職と役員は軒並み半数を超えました。

現在日本企業において、社員の英語力のデータは、中期経営計画と連動した全社目標・採用基準・タレントマネジメントの登録データなどと、幅広く用途が拡大しています。

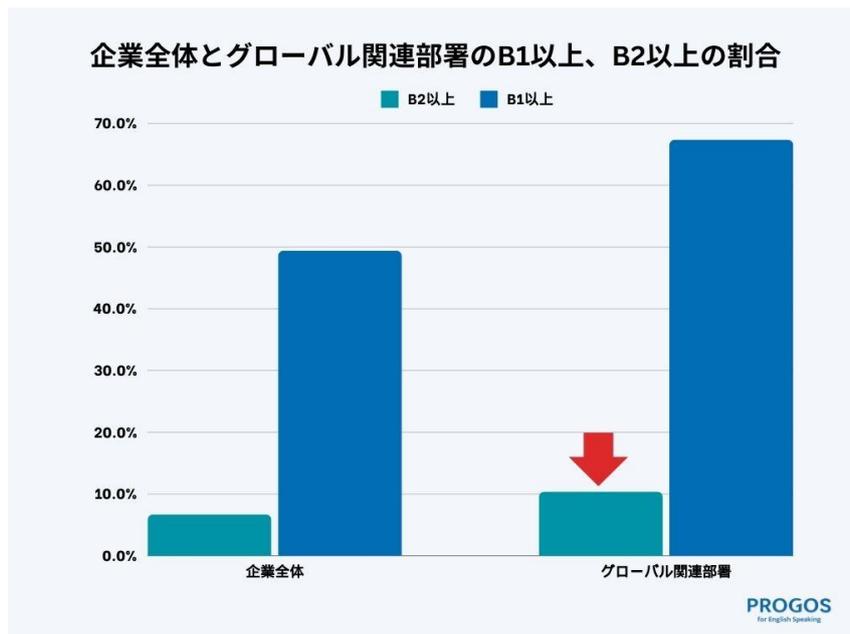


・主な 6 業種別：コンサルティングが最もスピーキング力が高く、6 業種の中では 40%以上が「B1」レベル受験者数が特に多かった、IT・インターネット、コンサルティング、メーカー（メディカルを除く）、エンターテインメント、メディカル（医薬品、医療機器）、運輸・交通に絞り、分析を行ったところ、コンサルティング業界は B1 以上が 60%以上と、他の業種と比較して英語力が高いことが分かりました。



・グローバル関連部署と企業全体の比較：グローバル関連部門でも英語で責任ある業務を行える「B2」以上は1割程度

グローバル関連の事業・業務を行う部署と、企業全体のレベルを比較しました。その結果、グローバル関連の部署の方がスピーキング力はやはり高いものの、グローバルビジネスで通用する、つまり責任のある仕事ができるレベルの「B2」以上の人は1割程度であることが分かりました。これにより、グローバル関連の業務を担当していながらも、まだまだスピーキング力が不足していることが分かりました。



■結果③ リスニング・リーディング力が高くても、スピーキング力が高いとは限らない

英語を学ぶビジネスパーソンの多くの方が受験している TOEIC®L&R と、「PROGOS®」の両方を受けた 69,350 人の受験データを活用し、技能間の比較分析を行いました。

CEFR レベルを共通の尺度として比較したところ、リスニング力とリーディング力が「B2」以上の人でも相応のスピーキング力を持つ人は 18%に過ぎないことが分かりました。また、「B1」レベルを持つ人で比較した場合は、47%でした。これにより、依然としてリスニング・リーディング力とスピーキング力の間には大きな差があり、英語を使ってビジネスができるか判断するには、スピーキング力も測定することが重要であることが分かりました。

N数=69,350

CEFR換算	リスニング・リーディング力 (TOEIC)	スピーキング力 (PROGOS)									
		Pre-A1	A1	A1 High	A2	A2 High	B1	B1 High	B2	B2 High	
C1	LR945-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	1.4%	1.2%	0.2%	
B2	LR785-	0.2%	0.0%	0.1%	0.3%	4.0%	7.8%	12.2%	4.1%	0.3%	
B1	LR550-	0.6%	0.3%	1.5%	3.0%	18.3%	12.8%	7.1%	1.1%	0.1%	
A2	LR225-	1.9%	0.9%	3.7%	4.3%	8.8%	2.0%	0.5%	0.1%	0.0%	
A1	LR120-	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
スピーキング力 (PROGOS)		Pre-A1	A1	A1 High	A2	A2 High	B1	B1 High	B2	B2 High	

その他、日本人の英語スピーキング力に関する調査結果について、より詳細なレポートをご希望の方は、以下よりお問い合わせください。

報道関係者の方：press@rarejob.co.jp

法人企業のご担当者の方等：<https://www.progos.co.jp/inquiry>

現在、日本の人材育成を取り巻く環境は大きく変化し、人材をコストでなく資本ととらえ、人への投資を強化する人的資本経営が推進されています。こうした変化の中で英語スピーキング力は事業のグローバル化推進に欠かせないスキルであり、国際的な言語指標である CEFR によってそのレベルを可視化することは、データドリブンな人事施策を実行する上でも、より一層重要になると考えられます。

「PROGOS®」は、AI によるアセスメントという特長を活かし、2020 年の提供開始から 4 年間で 66 万人分の受験データを蓄積し、過去にないスピードでその規模が拡大しています。今後も、これらの膨大なデータを基にした高度な分析を通じて、企業における人材の採用・配置・育成の最適化に向けたデータドリブンな活用を推進してまいります。

■「PROGOS®」について

「PROGOS®」は、国際標準規格 CEFR で英語スピーキング力を速く、手軽に、リーズナブルに測れるビジネス英語スピーキングテストです。手動採点に加えて AI 技術により採点自動化を実現し、短時間で結果の確認が可能。総合評価と 6 つの指標別評価から、弱点を把握して効率よい学習につなげることができます。企業・大学では、広く社員・学生のスピーキング力の可視化やグローバルリーダー育成のためのアセスメントとしてご利用いただいています。個人向けはアプリ版、法人向けはブラウザ版でテストを提供するほか、人材・教育関連事業社等にテストシステム単体でも提供するなど、様々な形態で展開しています。

詳細はこちら：<https://progos.ai/>

【株式会社プロゴスについて】

所在地：東京都渋谷区神宮前 6-27-8 京セラ原宿ビル 2F

代表者：代表取締役社長 坪内 俊一

URL: <https://www.progos.co.jp/>

事業内容：グローバルリーダーの評価・育成

【株式会社レアジョブについて】

所在地：東京都渋谷区神宮前 6-27-8 京セラ原宿ビル 2F

代表者：代表取締役社長 中村 岳

URL: <https://www.rarejob.co.jp/>

事業内容：英語関連事業／資格取得支援事業／子ども・子育て支援事業

上場取引所：東京証券取引所スタンダード市場

【レアジョブグループの事業展開について】

EdTech カンパニーのレアジョブグループは、グループビジョン“Chances for everyone, everywhere.”に基づき「世界中の人々が、それぞれの能力を発揮し、活躍できる世の中の実現」を目指しています。オンライン英会話をはじめ、AI ビジネス英語スピーキングテスト「PROGOS®」などアセスメントを軸とし、個人・法人・教育機関などを対象に事業を展開。また、英語だけでなくグローバルリーダーに必要な評価・育成・採用など人材関連サービスや、資格取得を支援するサービス、K12 領域における子ども子育て支援サービスも幅広く提供。今後も、国内のみならずグローバルな事業展開を推進してまいります。

■イメージムービー：レアジョブが描く少しだけ未来の風景

<https://youtu.be/6HWoKierAYs>

【提供サービス】

◆英語関連サービス

ーオンライン英会話サービス

- ・ [オンライン英会話サービス「レアジョブ英会話」](#)
- ・ [オンライン完結成果保証型英会話プログラム「スマートメソッド®コース」](#)

ーアセスメントサービス（英語力測定）

- ・ [ビジネス英語スピーキングテスト「PROGOS®」](#)
- ・ [英語スピーキング力診断アプリ「PROGOS®」](#)

ー法人向け人材育成関連サービス

- ・ [グローバルビジネススキル習得プログラム「グローバルスキル Power トレーニング」](#)
- ・ [法人向けグローバルリーダー育成研修サービス](#)

◆資格取得支援サービス

- ・ [法律系難関資格のオンライン学習サービス「資格スクエア」](#)

◆子ども・子育て支援サービス

ーオンライン英会話サービス

- ・ [子ども専門オンライン英会話サービス「リップルキッズパーク」](#)
- ・ [児童生徒向けオンライン英会話サービス「ボーダーリンク英会話」](#)

ー英語教室関連サービス

- ・ [子ども向け英語教室「グローバルフィールド」](#)

ー英語指導者派遣サービス

- ・ [ALT 人材派遣サービス](#)

【本お知らせに関するお問い合わせ】

株式会社レアジョブ 広報 荒川

メール：press@rarejob.co.jp